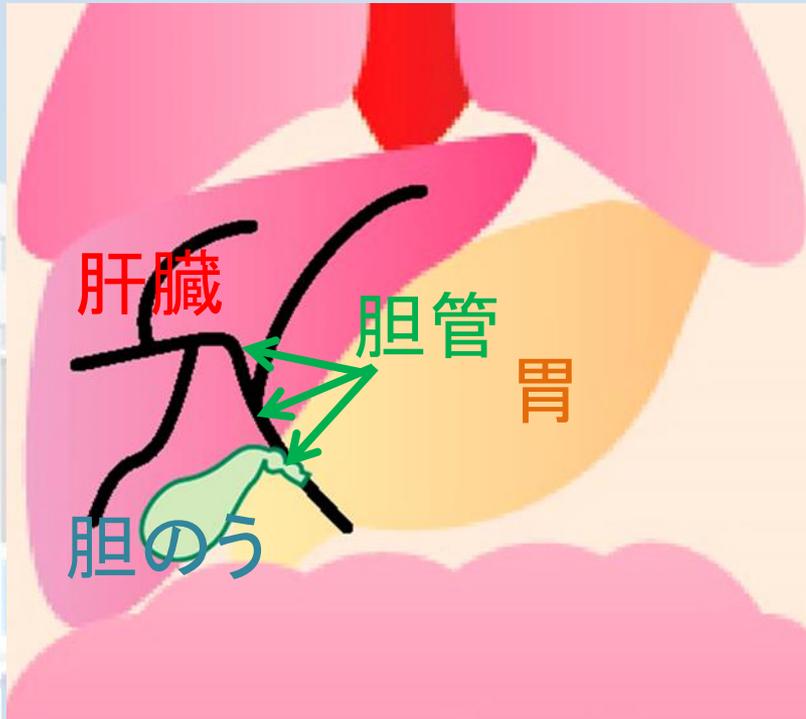


# 胆道ドレナージ



# 胆道とは？



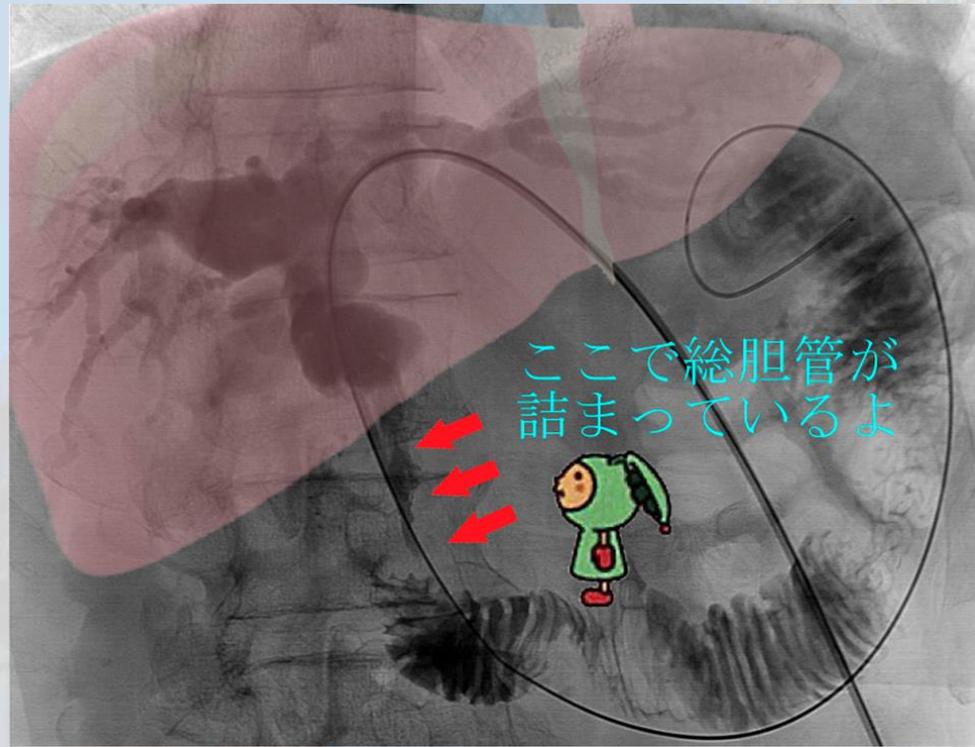
胆道とは、胆のうと胆管からなります。

胆のうは肝臓にぶら下がっていて胆汁を一時的に溜めておく袋のことです。

胆管は胆汁が通る道で、肝臓から腸管へつながっています。



# ドレナージとは？



胆道が何らかの原因で閉塞したり、狭窄して胆汁が腸管へ流れなくなってしまうと、胆汁が胆のうに溜まってしまい黄疸(皮膚が黄色くなる)になってしまいます。放置すると細菌が繁殖し、胆のう炎になってしまいます。

これを改善するために溜まってしまった胆汁を外へ排出することをドレナージと言います。

# ドレナージの種類は？

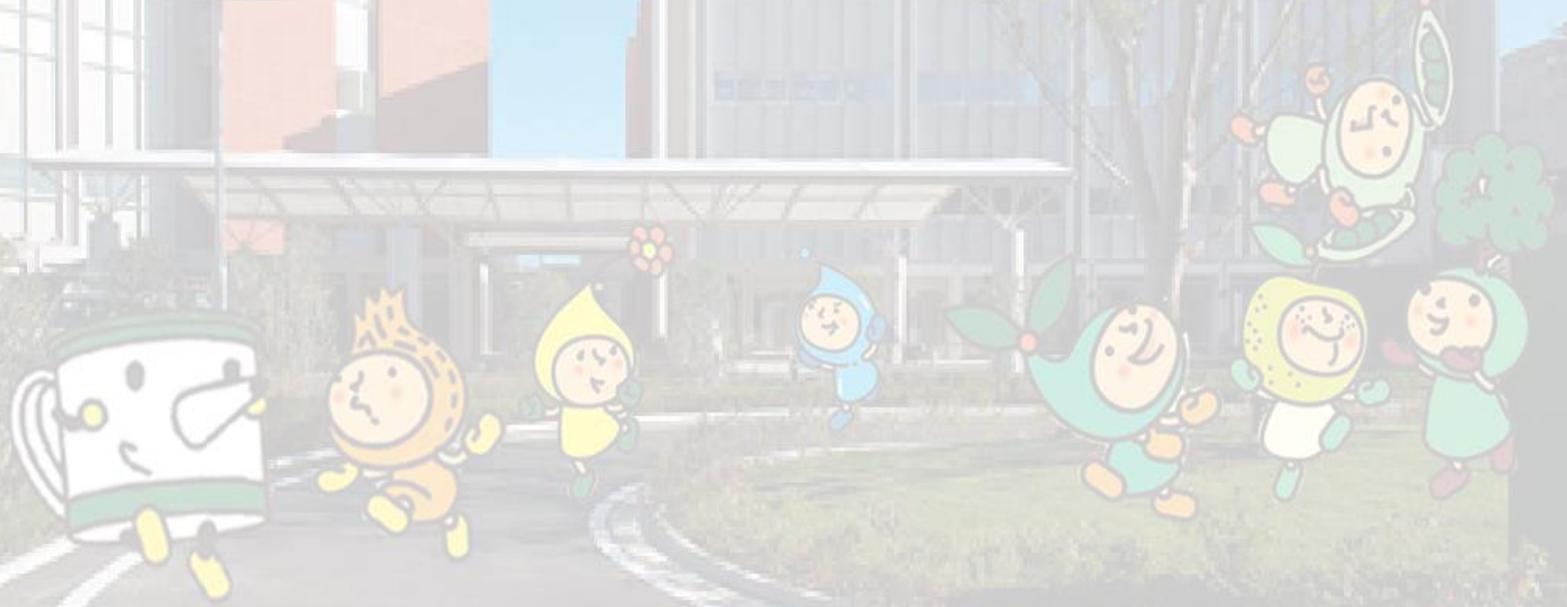
ドレナージには

- ①内視鏡的経鼻胆道ドレナージ
- ②経皮的肝胆道ドレナージ
- ③ステント留置術

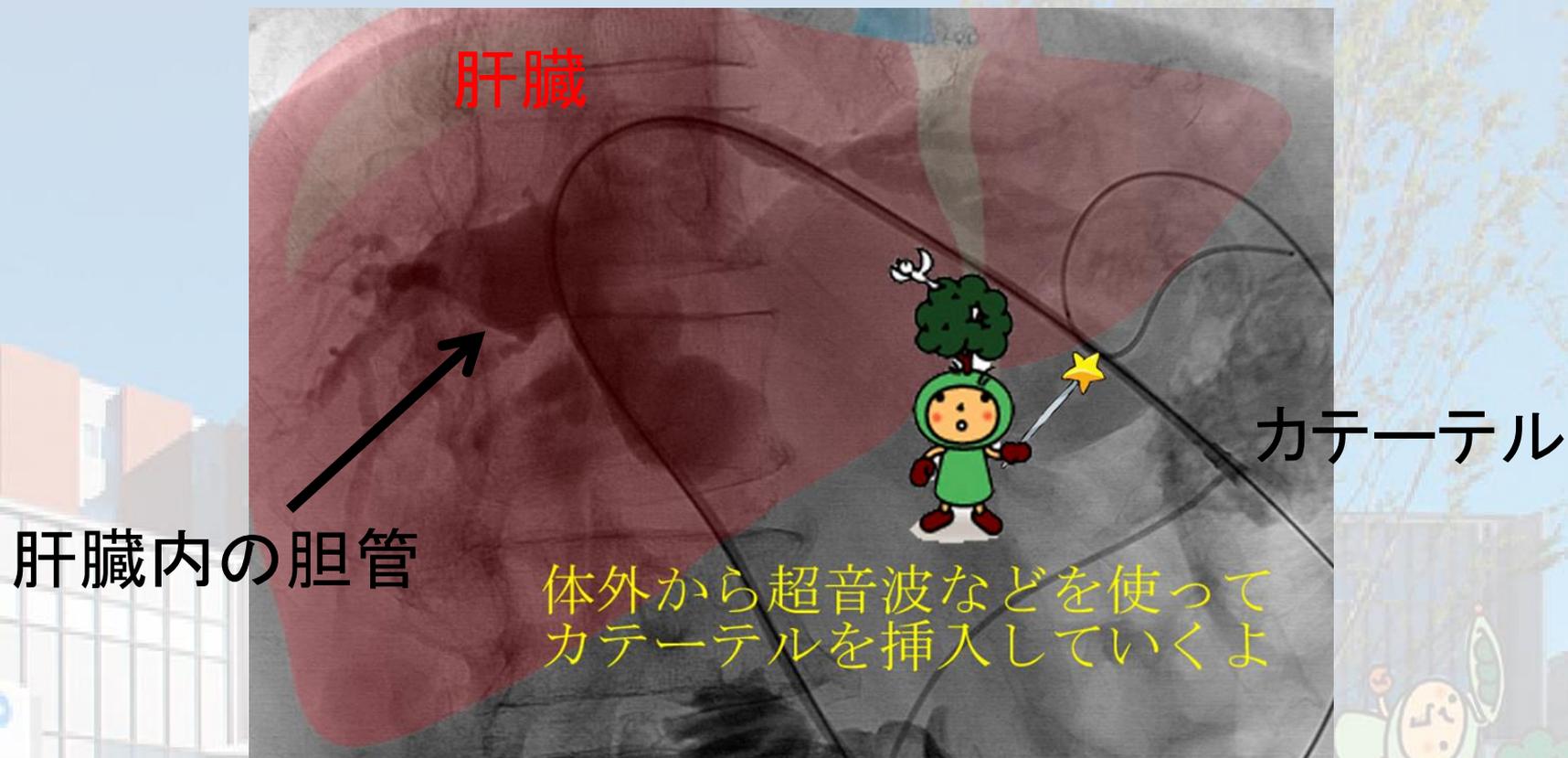
があります。

ここでは血管撮影室で行う②経皮的肝胆道ドレナージと③ステント留置術について説明していきます。

# 経皮的肝胆道ドレナージ

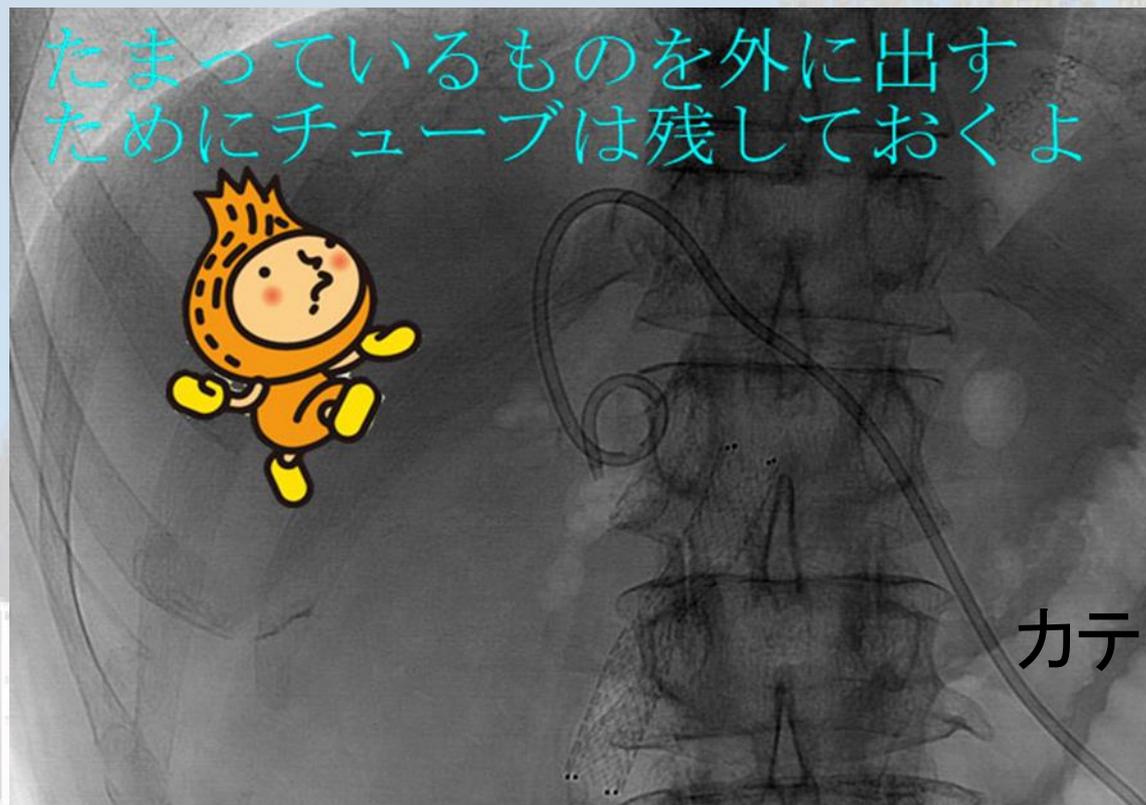


# 経皮経肝胆道ドレナージの治療方法



皮膚の消毒・麻酔を行い、超音波で確認しながら針を胆管内まで進めていきます。その後、カテーテルを入れ、胆管の結石、腫瘍による炎症などの原因を確かめるため造影を行います。

# 経皮経肝胆道ドレナージの治療方法



その後、チューブを留置して体外に胆汁を排出させます。

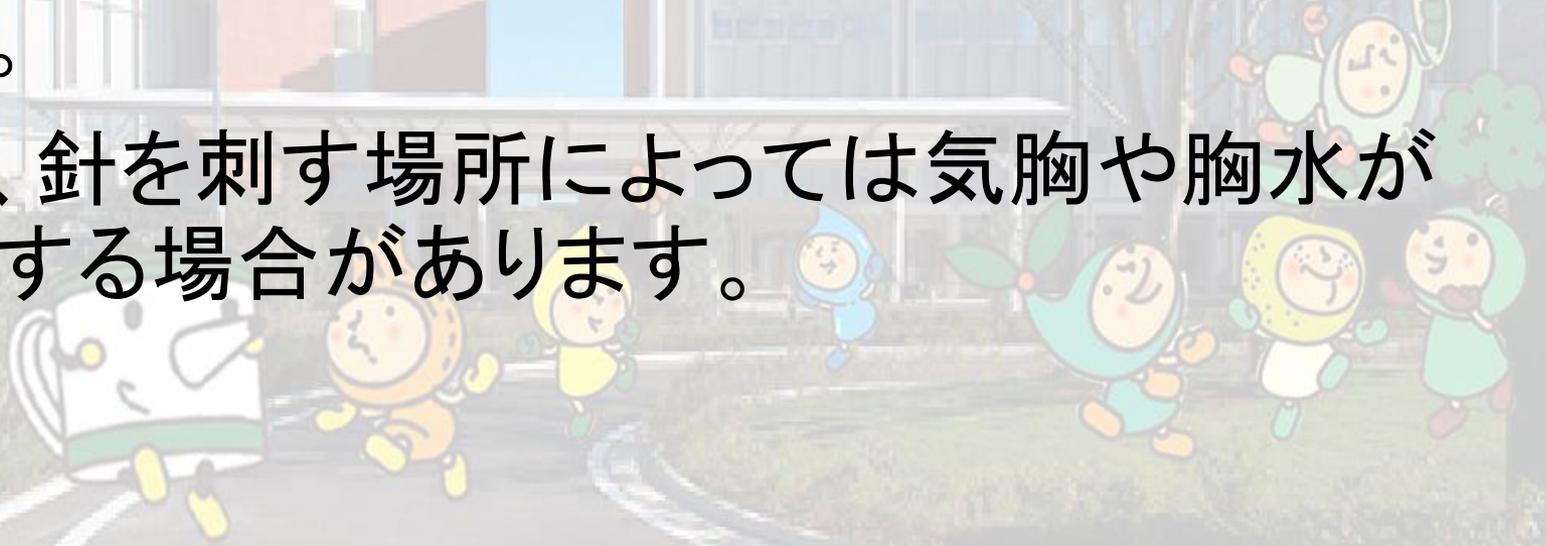
胆管の狭窄部位によっては2本以上のチューブを挿入する場合があります。

# 経皮経肝胆道ドレナージの合併症

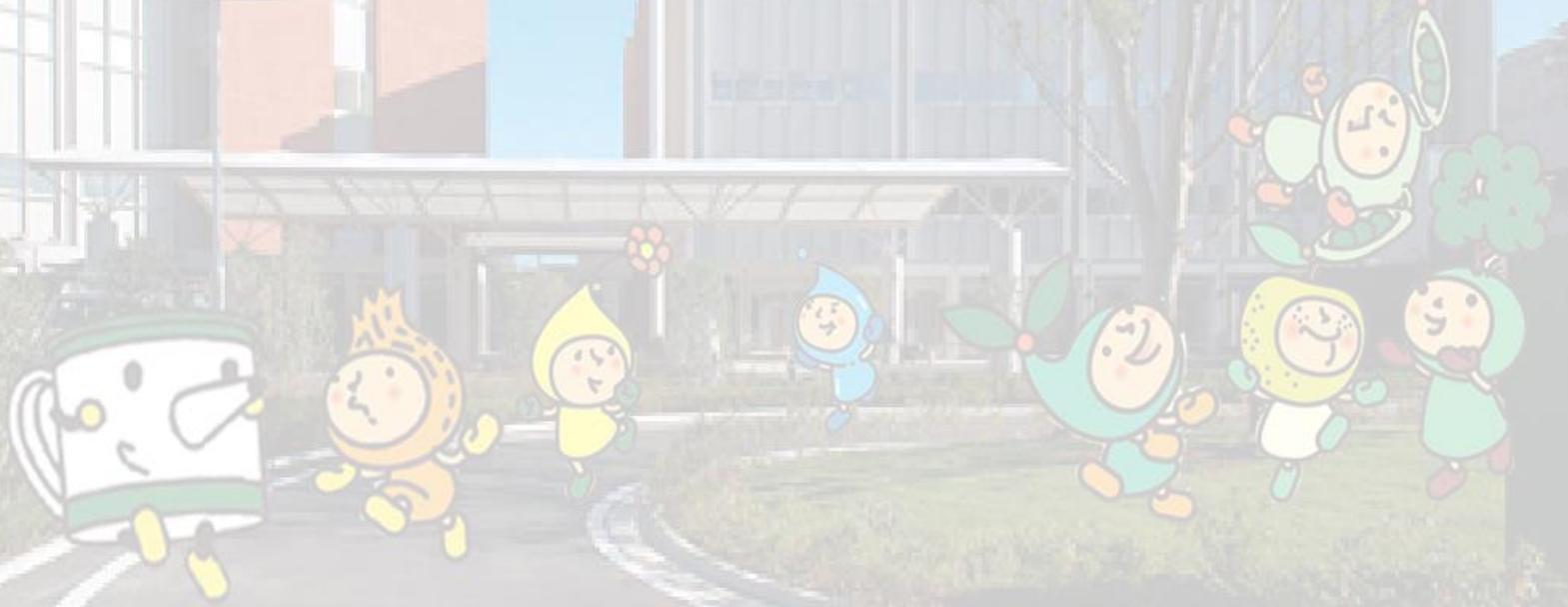
皮膚→肝臓→胆管の順で針を刺すので、出血に伴う合併症があります。針を刺した肝表面が出血したり、胆管内が出血した場合には胆汁に血液が混じることがあります。

少量の出血はよく起こりますが、自然に止血します。

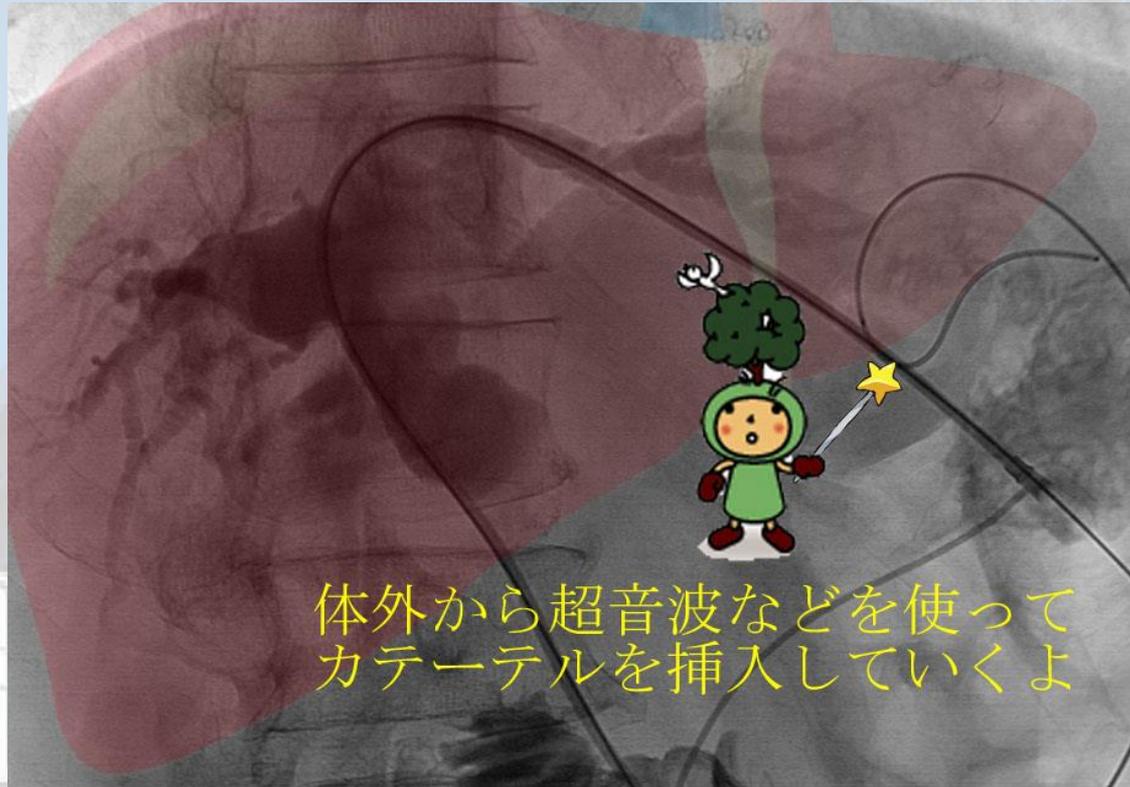
また、針を刺す場所によっては気胸や胸水が発生する場合があります。



# ステント留置術



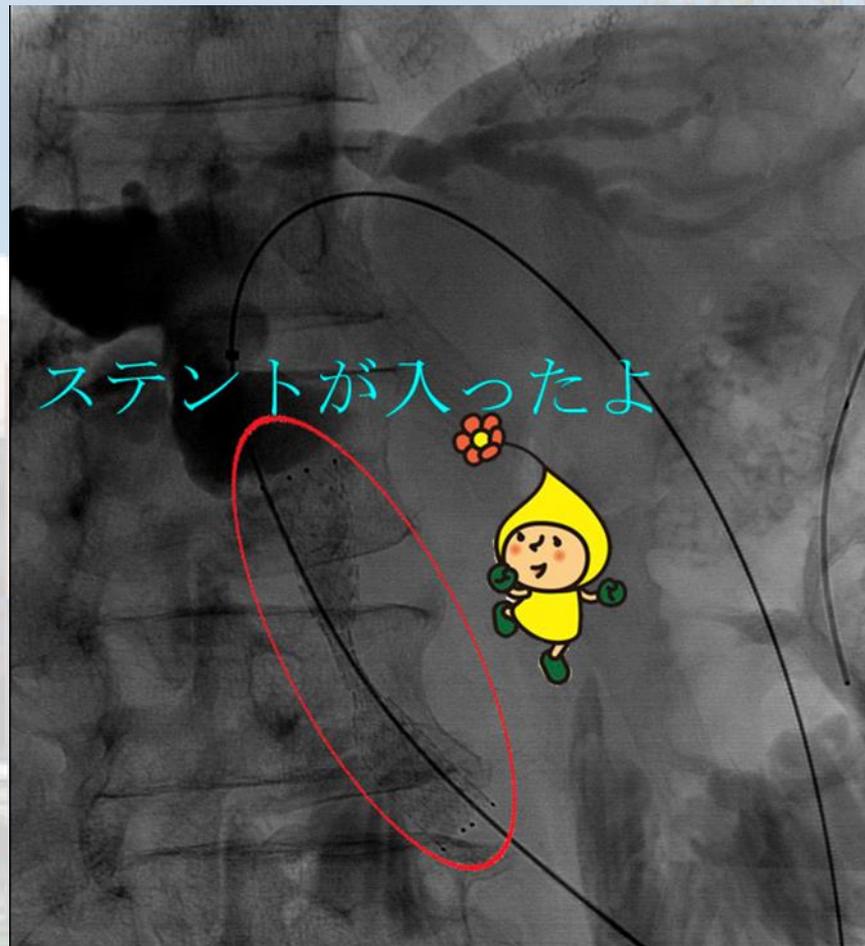
# 胆管ステント留置術の治療方法



体外から超音波などを使って  
カテーテルを挿入していくよ

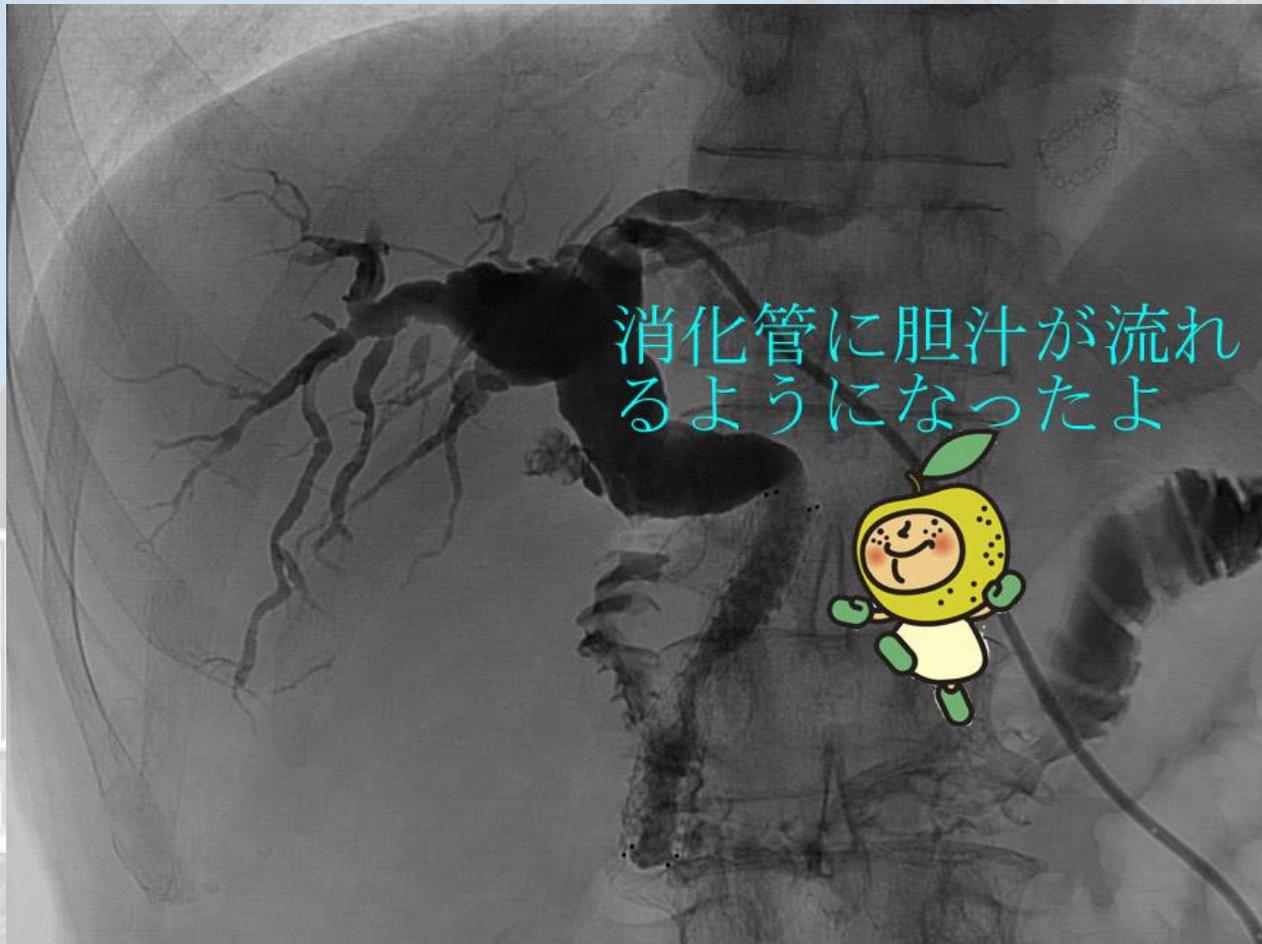
皮膚の消毒・麻酔を行い、超音波で確認しながら針を胆管内に進めていきます。その後カテーテルに入れ替え、カテーテルの先から造影剤を入れて造影検査をします。

# 胆管ステント留置術の治療方法



造影検査で狭窄部の長さや直径を計測した後、狭窄した胆管にステントを留置します。

# 胆管ステント留置後の画像



消化管に胆汁が流れるようになったよ

ステントを留置したことで狭窄が改善され、胆汁が流れるようになります。

# 胆管ステント留置の合併症

狭くなっている胆管にステントを留置するので、留置するときに痛みが発生することがあります。

また、出血を起こすこともありますが自然に軽快します。

また、何らかの原因でステントが1ヵ月以内に閉塞してしまうことがあります。その時はドレナージやステント留置を再度行わなければならないことがあります。

